

北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

[活動報告書 2018]

この活動報告書は、421Lab. (ラボ) から地域の皆様と共に歩んでいきたい
という思いを込めたお手紙(レター)のように作成しました。
これまでの活動への感謝とこれから始まる新しい関係への、
私たちからのラブレターのように手に取っていただければ幸いです。

発行：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
発行日：2019年3月
編集：北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
協力：プロジェクトに参加していただいた多くの皆様
制作：株式会社ゼロス



北九州市立大学 地域共生教育センター
Regional Symbiosis Education Center

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1 (北方キャンパス2号館1階)
[TEL] 093-964-4092 [FAX] 093-964-4088
[E-mail] info421@kitakyu-u.ac.jp
[OPEN] 10:00~18:00 (月~金)

詳しい情報やアクセスはホームページでチェック

www.kitakyu-u.ac.jp/421/

facebookで活動の最新情報を発信中 ja-jp.facebook.com/421lab

北九州市立大学 地域共生教育センター

ラボ・レター

[活動報告書 2018]

ラボ・レターによせて

2010年4月に開設した北九州市立大学地域共生教育センター(421Lab.)は、4月で10年目に突入します。思い返すと、開設前の状況から考えるに私が想定していた規模を大きく超える参加学生数、プロジェクト数、機能を有する取組みに成長したと感じています。当時は、学生たちと地域との関わりほとんどありませんでした。存在したとしても、各教員のゼミ活動の一環に位置付けられており、地域貢献というよりは大学教育の側面だけに焦点があてられたものでした。しかし、学生が地域で実践的に活動することで、学生の成長に寄与し、同時に地域活性化に寄与できるはずであるという信念の下に421Lab.の開設にチャレンジしました。

421Lab.は全国的にも類を見ない取組みであると感じています。単なるボランティア幹旋組織でもなく、単位を付与された正課教育でもない。しかし、地域共生「教育」センターであるように、非正課ではあるものの本学の大学教育の一環として位置づけられています。そのような中に参加する学生たちの主体性や意欲、使命感、問題意識には頭が下がる思いです。加えて、そのような稀有な取組みに対して地域の皆様が学生を受け入れていただけるからこそ、このような地域実践教育が展開できると考えます。本当に感謝しかありません。

未曾有の災害、加速する少子高齢化、産業革命にも匹敵するSociety 5.0、混とんとするグローバル社会など、様々な課題が社会には山積しています。2015年に国連はSDGsを制定して急速にその取組みが拡散しつつあります。そのような来るべき社会を担う人材の育成が今後の大学に求められるのは言うまでもありませんが、421Lab.が果たす役割も少なくないと感じます。学生のため、地域のため、ひいては社会のために421Lab.が存在し続けることを願っています。

2019年3月
地域共生教育センター長
眞鍋 和博

INDEX

- 6 421Lab.の「体験では終わらない」ための4つのステップ
- 8 STEP1 事前学習
- 10 STEP2 実践活動
- 12 421Lab.学生運営スタッフプロジェクト
- 13 東日本『絆』プロジェクト
- 14 防犯・防災プロジェクト(MATE's)
- 15 ハッピーバースデープロジェクト
- 16 子ども食堂応援プロジェクト
- 17 桜丘小学校学習支援プロジェクト
- 18 YAHATA "HAHAHA!" PROJECT
- 19 国際交流プロジェクト FIVA
- 20 食べる国際貢献プロジェクト
- 21 食から学ぼうプロジェクト
- 22 地域クリーンアッププロジェクト
- 23 青空学プロジェクト
- 24 「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- 25 学生・いぬねこを守る会
- 26 平和の駅運動プロジェクト
- 27 三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト Clear
- 28 オープンキャンパスプロジェクト／「キャリアーナ」プロジェクト
- 29 JOB×Project／施設での学習支援
- 30 STEP3 地域活動発表会
- 32 STEP4 振り返り研修・フォローアップ研修
- 34 平成30年度トピックス (1) 平成30年7月豪雨
- 35 平成30年度トピックス (2) インターカレッジ・TGC
- 36 インフォメーション型地域活動
- 37 卒業生・在校生インタビュー
- 38 REGION×STUDENT
- 40 421Lab. 概要
- 41 「地域活動のタイプ」について
- 42 インフォメーション型地域活動
- 43 2018年地域共生教育センター活動記録
- 44 バブリシティリスト
- 45 新聞記事
- 49 地域活動の申込みの流れ

受入先の方と一緒にあって、一から自分達で企画できた。
でも、実際に子どもたちの前でやってみると反省の連続でした。
でも、自分達で作っているからこそ、次はもっとよくしてやろうと思えました。

(学生アンケートより)

学生の頑張りを見ていると自分達も感化されて、
頑張ろうって思えるんですよ。

(受入先の方より)



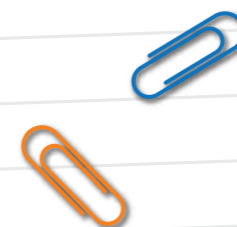
子ども達と一緒にあって食育の大切さを考えたい
被災地で活動して感じたことを北九州の安全・安心へと繋げたい
犬や猫の殺処分を減らし、命の尊さを伝えたい
地元の方々と連携して、北九州をゴミ1つない綺麗な場所にしたい

様々な想いを胸に多くの学生達が地域で活動を行いました。

地域の皆さまよりご指導・アドバイスを頂きながら、
何度も企画を練り直したり、時には遅い時間まで準備をしたり。

目標が達成できて大喜びしたこと、
思いがけず失敗してしまい悩んだこと、
この1年色々なことがありましたが、
活動を通じて、また一歩成長することができました。

今年1年の学生の頑張りをご覧ください。



「体験だけでは終わらない」ための4ステップ

「何を考えるか」から「何を学びとるか」へ

近年、学習のカタチが変化し、教員が一方向に教える講義スタイルから、社会現場での体験活動に主を置いた実習スタイルが増えてきました。421Lab.でも、商店街の活性化や自然環境の保全、伝統文化の継承などの実社会にある身近な課題をテーマとして、専門分野を超えて課題解決に向けた連携が進んでいます。

しかしながら、一般的な実習スタイルでは「体験すること」が目的となりがちであり、本来のねらいである「教育」からずれてしまうこともあります。

421Lab.では、「事前学習」、「実践活動」、「発表機会」、「振り返り研修」というPDCAサイクルを回すことで、学生自身が何を学びとるかを考え、確実に成長するプログラムを備えています。地域活動に関わった学生が取り組んだ課題に興味を持ち、卒業後の進路につながったり、活動で達成できなかった部分を自分の課題として向き合ったりしていくことにつながります。

体験するだけで終わるのではなく、学生が「体験を通して学びとる」ことに注力し、学生の成長を応援します。

PDCAサイクルとは

PDCAとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(分析)、Action(修正)の頭文字をとった造語で、プロセスのサイクルを大まかに説明したものです。

どのような活動でも、ある目的に向かうためのプロセスに当てはめることができ、PDCAサイクルを何度も繰り返すことが活動の改善に直結します。

しかしながら、PDCAを意識せずにいると、Checkまでも到達せずに、与えられた計画に対して実行を続けているのみになります。



STEP1 Plan

事前研修

事前研修は、地域活動をするにあたっての基本姿勢を確認、身につけるための準備の場です。昨年度からの継続メンバーはこれまでの活動内容や昨年度の反省を確認するために、「継続メンバー研修」を開催しました。また、今年度から参加する新規メンバーは受入先の方々をお呼びしてプロジェクト目的や今年度の目標を確認することを目的として「スタートアップ研修」を行いました。

継続メンバー研修

【日時】平成30年4月7日(土) 10:00~13:00

継続メンバー研修では、すべてのプロジェクトがこれから1年間に向けた体制作りができるようにサポートするという目的のもと行われました。プロジェクトとしての「目的」や「目標」とは何かを再確認したり、昨年度の振り返り、今年度の年間スケジュールを作成したりしました。

プログラム	
時間	内容
10:00~10:05	当日の流れの説明
10:05~10:50 第一部 振り返り	1.パワーポイントを使った導入 ○運営スタッフによる導入
	2.前年度振り返り ○個人での振り返り ○プロジェクト全体での振り返り
10:50~12:00 第二部 今年度に向けて	3.今年度スケジュール作成 ○年間スケジュールを作成
12:00~12:10	休憩
12:10~13:00 第三部 まとめ	4.発表 ○プロジェクト代表者ごとに発表 ○アンケート記入



学生の声(学生アンケートより)

新入生を迎えて行うスタートアップ研修の前に、改めてプロジェクトの目的や目標を確認することができたのでよかった。

来年度1年間の見通しを立てて話をすることで、活動の意欲がよりわきました。

前期スタートアップ研修

【日時】平成30年5月12日(土) 10:00~13:00

前期スタートアップ研修では、新しく入ったメンバーが初めて参加することになる研修です。平成30年度の当研修の目的は、「プロジェクト内で交流してもらい421Lab.について勉強してもらおう」というものでした。1部と2部で構成されていて、1部では「地域活動を行う上でのマナー」や「421Lab.の使い方について」となっており、421Lab.というものを理解してもらい、続けて2部でプロジェクトの「受入先の方との顔合わせ」を行うことで、地域活動を肌で触れる先駆けとなるような研修になっています。

プログラム	
時間	内容
10:00~10:10 はじめに	導入(概要説明・自己紹介)
10:10~10:45 第一部 導入	1.教員によるガイダンス 2.地域活動を行う上でのマナー 3.421Lab.の使い方について
	移動・休憩
11:00~12:25 第二部 交流と共有	4.アイスブレイク ○じゃんけん列車 ○自分クイズ 5.受入先との顔合わせ
	12:25~13:00 まとめ



学生の声(学生アンケートより)

《新規メンバー》
入る前は曖昧だったプロジェクトの活動内容が今回の研修で詳しく知れた。

《継続メンバー》
後輩たちにもっと伝えていきたい、より良い活動をしたかった。



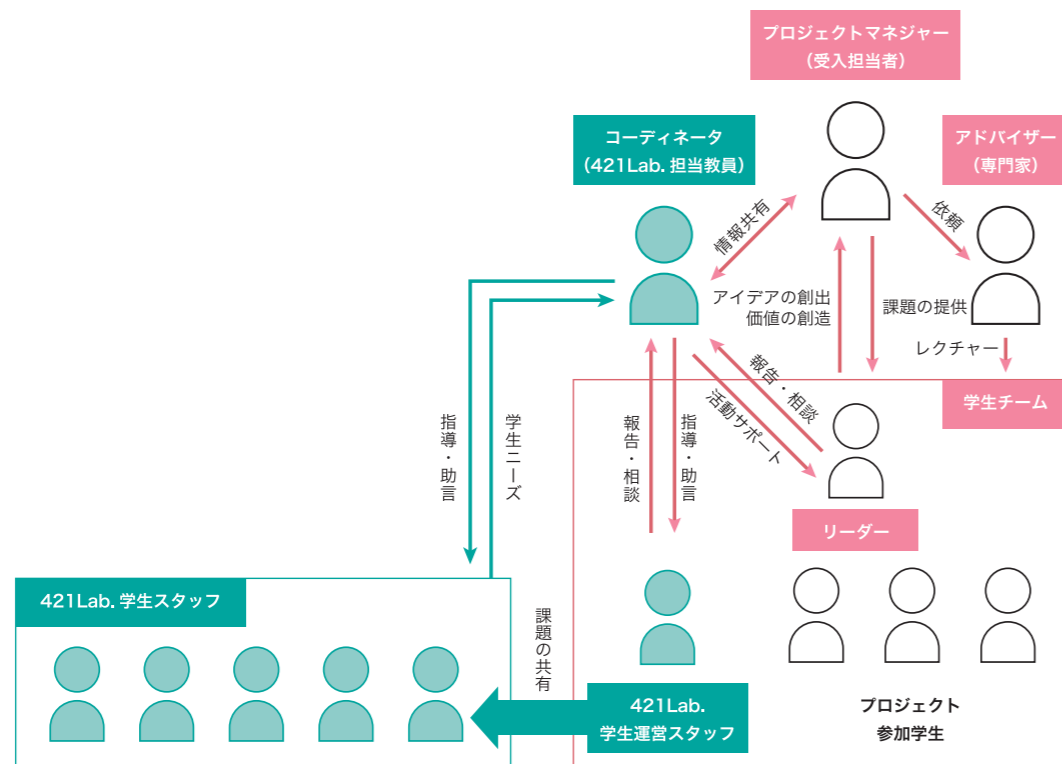
STEP2 Do

実践活動

実践活動では、周りの先輩方が何を見て、どう考え、どのように判断したのか。それを見聞きして知識として蓄え、経験を重ねていくことで、適切な判断へと近づいていきます。机上の理論だけではなく、現場の空気から状況を読み解いて判断することができ、地域からも信頼される存在となります。教科書では教えられない経験値(経験や勘に基づく知識)をここで獲得します。

実践活動の組織体制

プロジェクト毎に関係主体は異なりますが、基本的な組織体系は図の通りになります。受入担当者はプロジェクトマネージャーとして、目的に向かって進むようにプロジェクトの舵取り役を担います。担当教員はコーディネータとして関わり、受入先との調整や学生のメンタルサポートを行います。必要に応じて専門家が関わり、学生へのレクチャーを行います。学生はリーダーを1人決めて、プロジェクトマネージャーとの連絡を密に取り、チームをまとめていきます。また、421Lab.の学生運営スタッフが参加学生として関わり、チームづくりのサポートや他のプロジェクトとの連携を図っていきます。



学びのためのきっかけを創り出す

センターが提供するプロジェクトはそもそも単位化されていません。そのようなプロジェクトに参加している学生は、学部、学年横断型のチーム編成や社会人との協働により、新たな価値観に触れ、異なる意見にも耳を傾け、自らの役割を理解しながら活動を進めています。

また、プロジェクトを進めて行く際には様々な困難に直面するため、感情的になってしまったり、モチベーションが低下してしまったりすることもあります。途中で辞めずに1年間活動をすることで、学生自身の成長へと繋がっています。

地域と連携しやすい環境や、学生が真摯に活動に向き合える環境を教職員一丸となって提供することで、地域と学生が共に成長できる社会づくりを積極的に進めています。

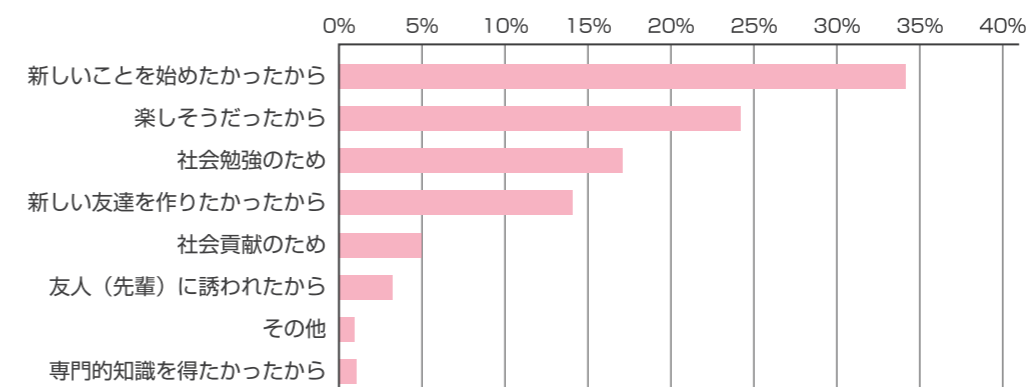
地域共生教育センター 基礎データ

登録学生数

1,946名 (平成30年2月末現在)

活動学生の学年別内訳

参加動機



421Lab. 学生運営スタッフ プロジェクト

地域とつながり、学生をつなげる



リーダー

法学部 法律学科
2年 近藤 晴菜

参加学生数

53名

活動開始時期

2010年4月～

活動頻度

月に10～15回程度の
ミーティング
(週に1回全体ミーティング)
活動は主に月曜日～金曜日
(月に1～2回程度土日の活動あり)

受入・連携団体

地域共生教育センター

主な活動場所

北九州市立大学

「421Lab.学生運営スタッフ」は、多くの北九大生に地域活動を通して貴重な学びを得てもらうために活動しています。地域活動の魅力を発信し、活動しやすい環境を整えることを通じて、より多くの北九大生に地域活動へ参加してもらえるように頑張っています。また、地域活動に参加している学生にとって、より充実した学びを得てもらうためのサポートも行っています。

今年度の活動の内容と成果

学生運営スタッフは、地域活動の魅力発信と地域活動に参加する学生のサポートを行っています。地域活動のことをよく知らない学生にどうしたら興味を持ってもらえるか、また、すでに活動を行っている学生にはどのようなサポートをすればよいのかなど、様々な人の立場に立って考え、日々活動しています。また今年度は運営スタッフが増えたこともあり、様々な企画に挑戦しました。北方市民センターで行われる新しい市民向け講座の企画に携わらせて頂いたり、421Lab.の広報誌である「Lab.Times+」の発行を行ったりと、多くのことにチャレンジした1年間でした。市民センター講座では講座の企画・運営に携わることでより多くの地域の方と交流ができ、貴重な学びを得ることができました。「Lab.Times+ (ラボタイムズプラス)」では、従来の広報誌を大幅にリニューアルし、たくさんの方に地域活動の魅力と地域での活動している学生の頑張りや成果を伝えることができました。

活動を振り返って、今後の展望

学生運営スタッフは今年度で活動10年目になります。これまで培ってきた経験やノウハウを継承しながら、地域活動を通じた学びをより多くの学生に得てもらうために頑張っていきたいと考えています。これまで行ってきた活動はもちろんのこと、今年度から始まった「Lab.Times+」や市民センター講座の充実など、学生だけでなく地域の人にも地域活動の魅力を知っていただきたいと思っています。



東日本『絆』プロジェクト

東日本大震災を忘れず、長い支援を!



リーダー

経済学部 経営情報学科
2年 前田 ほのか

参加学生数

13名

活動開始時期

2016年4月～

活動頻度

週に1回のミーティング
月1回の活動

受入・連携団体

お好み焼き いしん

主な活動場所

北九州市

私たちの生活の場である北九州市から、被災地に対して出来ることはないかという事を一人一人が意識し、活動の中でどのように取り入れていくのか、メンバーで協力して形にしています。受け入れ先である、「お好み焼き いしん」と一緒に、小倉発祥焼うどんと東北の岩手県釜石産のイカを使用した「絆焼うどん」の出店活動も精力的に行なっています。

今年度の活動の内容と成果

私たち東日本『絆』プロジェクトの今年度の主な活動は、大きく分けて2つあります。
1つ目は、絆焼うどんに使われている食材を提供して下さっている方々への取材です。取材をすることによって、私たち自身がまず絆焼うどんに使われている食材について学び、知識をつけることができました。また、絆焼うどんを手にとって下さった方に食材の良さを知ってもらうため、取材した内容をもとに動画作成も行いました。この活動により、新たに参加したメンバーもプロジェクトへの理解が深まり、有意義な活動になったと実感しています。
2つ目は幼稚園や子ども食堂等での絆焼うどんの提供です。幼稚園では、縁日に出展させていただきましたが、東北のイカを使い、学生が実際に目の前で焼くことで保護者の方々からも好評をいただきました。また、子ども食堂では絆焼うどんの実演に加え災害についての学習を行い、災害時に役立つ新聞紙スリッパを作る活動も行いました。小さい子どもたちは東日本大震災を記憶していないので、風化の防止にもなったのではないかと考えています。
今年度の活動では、新たな取り組みを数多く行い、例年にも増して絆焼うどんを広めることができたと感じています。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は、今まで以上に多くの方々に私たち東日本『絆』プロジェクトという団体とその活動について知っていただけたと思います。また、同時に東日本の現状や災害の怖さも伝えることができたと思います。次年度は今年度の活動を活かし、今年度以上に多くの方々に、絆焼うどんを通して東北の復興について周知してもらうことを目標に活動を行っていきたく思います。



防犯・防災プロジェクト (MATE's)

防犯・防災意識向上の“きっかけ”づくり

リーダー

法学部 法律学科
3年 岸本 勝也

参加学生数

41名

活動開始時期

2010年10月～

活動頻度

月2回の定例ミーティング
平均月4、5回の活動

受入・連携団体

北九州市役所
小倉南警察署
小倉南区役所
小倉南消防署
福岡県庁

NPO法人好きちゃ北九州
一般社団法人九州防災パートナーズ

主な活動場所

北九州市内の小・中学校や
市民センター、朝倉市等



「北九州を学生の視点から安全・安心なまちにしたい」そんな想いから、防犯・防災という切り口で活動を行っています。犯罪や災害はいつでもどこで発生するかわかりません。そういった中で、一人ひとりが他人事ではなく、自分事として考え、万が一の時ベストな行動がとれるよう、防犯・防災の側面から地域コミュニティの活性化を図るプロジェクトです。

ハッピーバースデープロジェクト

子どもたちが成長できる誕生日会をつくるために ～ゼロから作る特別な誕生日会～

リーダー

文学部 人間関係学科
2年 長谷川 敦子

参加学生数

16名

活動開始時期

2010年4月～

活動頻度

毎週水曜日の
3～5限に準備を行い、
第3水曜日に誕生日会を行う

受入・連携団体

東朽網放課後児童クラブ

主な活動場所

東朽網放課後児童クラブ



児童クラブには保護者の方の仕事の関係で放課後を家庭で過ごすことができない子どもたちが多くいます。そのため、子どもたちに少しでも楽しく特別な時間を過ごしてほしいという思いからプロジェクトがスタートしました。現在は、大学生が月に一度、東朽網放課後児童クラブを訪問し、自分たちでゼロから企画、運営する誕生日会を開催しています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は継続と飛躍の年でした。継続の観点からは、私達の主要活動である地域安全マップづくりを3校で実施し、地区Bousai会議においては学生アドバイザーとして5校区に参画、また災害時緊急支援活動としては、平成30年7月豪雨で被害の出た門司区に設置された災害ボランティアセンター門司サテライトの運営に初動期から学生派遣を実施できたことです。

また、飛躍の観点では、今年度から新たな取り組みとして防災・緊急支援分野で大きな成長がありました。防災・災害支援活動を行う全国の学生との横のつながり、スキルアップを目的に平成30年7月豪雨で被災した愛媛県宇和島市において全国学生防災サミットを他団体と共同で実施しました。復興支援活動を行うと同時に災害に対する意見交換を行うことで、災害に対する考え、防災の重要性を学ぶ機会となりました。

その学びを活かして、地区防災会議のフォローアップ訓練に計4校区参加し、小学生に対する防災教育、地域の方に対してブース出展という形で関わらせて頂きました。「災害現場を知り、防災の重要性に気付く、北九州の防災活動をさらに加速させる」というMATE'sの想いをカタチにすることができました。

活動を振り返って、今後の展望

MATE'sの防犯活動の軸となっている地域安全マップづくりは、地域での持続性がないという課題があります。そのため、次年度は、その地域安全マップづくりで培った知識や経験を利用して、地域の方と協力して、“犯罪が起きにくい街づくり”という観点から新たな活動を行いたいです。防災の活動においては、今年度はNPO法人の方との強いつながりを持った活動ができたので、そのつながりを活かし、“地域主体の防災”を進めていきたいです。

学生の成長は地域貢献や地域の課題解決につながっています。そのため、学生自身が防犯・防災についてのより深い知識を身に付け、それを地域に還元できるような取り組みもしていきたいです。



今年度の活動の内容と成果

私たちは今年度も東朽網放課後児童クラブと連携して毎月一回の誕生日会を開催しました。今年は「誕生日会に学びの要素を」というテーマを掲げ、一年間活動してきました。普段の誕生日会で行うゲームを、ただ楽しい時間にするのではなく、子どもたちにとって何か学びになる要素を加えようと工夫しました。

具体的には、ゴミ分別ゲームをやってみたり、食と農業学び場プロジェクトの方とコラボレーションして食育ゲームを行ったりしました。ただ子どもたちの前で話をするよりも、ゲームを通じて楽しみながら学ぶことで自然と知識が身につく、子どもたちも積極的に参加をしてくれました。

今年掲げたテーマのもと、メンバー間で様々なアイデアを出しながら理想の誕生日会づくりのために活動することができました。良かった点、そして反省点も含め来年度に繋げていきたいと思っています。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は目標に沿って誕生日会づくりを行うことができました。そこで来年度は今までの私たちの経験を活かしつつも、受入先の先生方と意見交換を積極的に行ったり、外部講師の方を呼んで子どもについて学んだりしながら、新たな要素を取り入れた活動を行いたいと思います。



子ども食堂応援プロジェクト

おなかも心も満たされる、 あたたかい居場所づくり

リーダー

法学部 法律学科
2年 甲斐 裕基

参加学生数

30名

活動開始時期

2016年9月～

活動頻度

《尾倉》第2・4週水曜 17:00～
《日明》毎週木曜 17:00～
《あんず》第4週金曜 17:00～

受入・連携団体

NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
グリーンコープ
子どもふれあい食堂「あんず」
北九州市子ども家庭局

主な活動場所

尾倉市民センター
日明市民センター
小倉中央市民センター



仕事等で保護者の帰宅が遅くなる家庭の孤食を防ぎ、子どもたちが「ただいま」と言える居場所を提供することを目的に子ども食堂を開設しています。私たち子ども食堂応援プロジェクトは子どもとご飯を食べるだけではなく、子ども一人一人に合わせた学習支援や子どもと一緒に遊んだり、時にはお楽しみ会を企画したりと様々なアプローチから子どもの居場所を作ることを目指しています。

桜丘小学校学習支援プロジェクト

とにかく深く！児童の学力向上に貢献！！

リーダー

外国語学部 英米学科
2年 河原 滉樹

参加学生数

8名

活動開始時期

2017年4月～

活動頻度

月に5時間程度、
平日、自分が活動できる日

受入・連携団体

北九州市立桜丘小学校

主な活動場所

北九州市立桜丘小学校



小倉北区の桜丘小学校にて、児童の学習支援を行います。普段の授業では、「アシスタントティーチャー」として授業に参加し、特別支援学級では、生活支援、地域探検では安全確保の補助も行います。

今年度の活動の内容と成果

今年度は子どもたちとの結びつきを強めるために、学習面への更なるバックアップや地域の方や他の学生など、今まで関わりのなかった方とも交流の機会を作るという目標で、私たちは活動を行ってきました。

「尾倉っこホーム」では、今年度より、個人の苦手に対し、各々のペースを尊重した学習支援に取り組んできました。「日明元気もりもりハウス」では毎週の活動に加え、月に1度お誕生日会を開くなど様々なイベントを開催してきました。また、現在はギラヴァンツ北九州様とのコラボ事業の開催に向け協議を進めています。

昨年度までの2か所の子ども食堂から今年度は18か所に増えたため学生が立ち上げの応援に参加したり、新たな場所での活動が広がりました。

各子ども食堂で、普段の食事や遊びに加え、東日本絆PJの協力の下焼うどんの提供や防災教育を行ったり、クリスマス会ではアカベラサークルのコンサートや、ビンゴゲームを行いました。学生がイベントを盛大にかつ、元気いっぱいに行う事で子どもたちの想いを大切に、様々な経験をさせてあげられるように日々工夫しながら活動しています。

活動を振り返って、今後の展望

今年度は子ども食堂応援PJが活動の幅を広げた一年となりました。子どもへの学習支援を始め、Twitterのアカウント開設、他PJやサークルとのコラボレーション等、様々な挑戦をしてきました。その反面、自分たちの所属しているPJが最終的にどんなゴールに向けて活動しているのかを見失いかける学生が出てくるという課題が生じました。こうした反省を踏まえて次年度はPJとして新たな試みを行ってだけでなく、メンバー一人一人が本PJの目的を振り返る機会を作るなどし、より深くPJが持つ目的に根差した活動を行うべく尽力していきます。



今年度の活動の内容と成果

4月に新メンバーを含めたミーティングを行い活動内容と目標を確認しました。今年度は、教職課程を履修している学生に加え、社会福祉士の資格取得を目指す文学部の学生も加わり、意見交換を多く交えながら、活動を進めていきました。

各メンバーが平日参加の可能な曜日を、小学校のコーディネーターの方に連絡をし、週1回個人がしっかりと活動することができました。また、10月からは毎週水曜日の放課後3、4年生を対象に放課後教室を行いました。

また、今年度のチャレンジとして、小学5年生を対象に「大学はどこなのかな」「何について勉強するのか」を学生の視点から将来の進路について学ぶ「キャリア教育」を行いました。

活動を振り返って、今後の展望

教職課程の履修者以外の学生にも参加を積極的に募り、更に活気のあるプロジェクトにしていきたいと考えています。



YAHATA “HAHAHA!” PROJECT

国際交流 × 地域貢献 ～外国人の方と地域住民の架け橋～

リーダー
外国語学部 国際関係学科
2年 細川 朋伽

参加学生数
27名

活動開始時期
2010年4月～

活動頻度
月1ミーティング
イベント前は頻繁にあります

受入・連携団体
八幡駅前開発株式会社

主な活動場所
JICA九州
八幡東区響ホール 等



海外の方が多く生活している八幡駅周辺を拠点に、外国人の方が過ごしやすいような街づくりをすることを目的に活動しています。英語を活用したい学生が集まり、八幡駅前開発株式会社と協力しながら世界共通の笑い“HAHAHA”を広げることを理念とし、街歩きや料理教室の企画・運営、近年は響ホールとの活動などを行っています。

“ 今年度の活動の内容と成果 ”

昨年度からの継続メンバーが提案した「去年やろうと思ってできなかったことをやりたい」との声から、海外の方と一緒に料理教室を開催したり、響ホールと連携してイベント行ったりしました。

さらに、定例の活動として、「まちあるき」や「正月イベント」を行いました。私たちが地域の方と研修員の方の間に、互いが関わる機会を作り、日本文化を知ってもらうことで、住みやすいまちづくりに少しでも貢献できたと思います。

また、今年度は新しいチャレンジとしてJICA合宿を行いました。これはJICA九州に宿泊することで海外の方から見た暮らしを体験したり、プロジェクト間での絆を深めたりといった目的です。さらに、今年度は数年前にプロジェクトの先輩方が作成したフリーペーパーの刷新を行いました。苦労して出来上がったマップはJR八幡駅やJICA九州にも設置していただいたり、新聞にも取り上げてもらったり、そのことが八幡区長への表敬訪問にも繋がりました。フリーペーパーはもちろん多くの方にYAHATA “HAHAHA” の存在を知ってもらうことができたと思います。

“ 活動を振り返って、今後の展望 ”

今年度は「JICA合宿」や「フリーペーパーの刷新」など、初めてのことに取り組みました。また、前年度やりかかった「料理教室」やこれまで継続して実施してきた「まちあるき」など多くの活動を行いました。次年度から、連携先である八幡駅前開発株式会社が新たな事業を手掛けるため、421Lab.のプロジェクトとしての関わり方は終了となりますが、ここで培った事を活かして、今後も頑張っていきたいと思っています。



国際交流プロジェクト FIVA

笑って、学んで、楽しむ。 北九州市で国際交流

リーダー
文学部 比較文化学科
3年 樋口 晴菜

参加学生数
35名

活動開始時期
2016年4月～

活動頻度
月に1～2回程度のイベント
毎週木曜日昼休みに
ミーティングなど

受入・連携団体
北九州YMCA学院
北九州国際技術協力協会(KITA)
日本国際協力センター(JICE)
国際協力機構九州国際センター(JICA九州)

主な活動場所
北九州市内各所



北九州市に日本の技術を学びに来るJICA研修員やYMCA日本語学院で日本語を学ぶ留学生たちが、日本の滞在期間に充実した時間を過ごしてもらうために、それぞれの対象者に応じたイベントの企画、準備、運営を行っています。自分たちで一から企画することで、交流作りの楽しさ、やりがいを感じることが出来ます。また、地域住民を巻き込んで多文化共生の心を育むことを目標としています。

“ 今年度の活動の内容と成果 ”

今年度は、「多文化共生」をテーマに、留学生にとって、より住みやすい北九州市とは何か、私たちにできることは何かを考えながら、活動を行ってきました。具体的には、一年間の交流を通して、留学生たちが抱える悩みや北九州市に対するイメージなどを聞き出し、アンケート調査をして、2月には北九州市へ意見発表を行いました。その中で、外国人の視点や悩みを知り、私たち自身も北九州市や日本文化に対する認識を深めることが出来ました。

JICAの方では、今年度初めてJICA職員の方に来ていただき、勉強会を行いました。自分たちが、交流する研修員の方々の、日常生活の様子や、来日目的などを、JICAの職員さんから直接教えて頂き、よりJICAやKITAへの理解が深まりました。そして、そのことがより充実した交流をする事に繋がったと思います。

一から企画を考えていくことは大変ですが、「楽しかった」「次はいつ？」などといった声をもらい、次も頑張ろうと思えます。

“ 活動を振り返って、今後の展望 ”

今年度は、新たなイベントや市への意見発表などを行ってきましたが、来年度はさらに多くの住民を巻き込んだり、他のプロジェクトとコラボ企画をしたりして、より充実した活動を行いたいと考えています。また、企画ごとにアンケートを実施し、より多くの外国人の方から企画や北九州市に対する意見をいただき、活動をよりよいものにしていきたいです。さらに北九州市をより外国人の住みやすい場所にする力になりたいと考えています。



食べる国際貢献プロジェクト

20円で世界を変える ～あなたにもできる「食べる国際貢献」～

リーダー
地域創生学群 地域創生学類
2年 山本 愛華

参加学生数
14名

活動開始時期
2014年4月～

活動頻度
毎週1回
昼休みにミーティング
土日祝 ×

受入・連携団体
北九州市立大学生協

主な活動場所
生協食堂
421Lab.



世界では全人口70億人のうち、20億人が肥満に苦しむ一方、10億人は飢餓に苦しんでいる食の不均衡が問題となっています。これを解決するために、私たちは食堂でTABLE FOR TWO(TFT)メニューを販売し1食につき20円を途上国の子供たちの給食1食分の寄付金として届ける活動を行っています。主に、生協食堂との協力で月1回のTFTフェアの開催・広報活動を行っています。

食から学ぼうプロジェクト

持続可能な食を ～作って食べて、語り合う～

リーダー
地域創生学群 地域創生学類
2年 佐藤 樹

参加学生数
11名

活動開始時期
2017年4月～

活動頻度
定例活動はないですが、
毎週ミーティングを行います。
また、昨年度は月に1回
活動を行いました。

受入・連携団体
足原市民センター
広徳小学校

主な活動場所
学校



私たちは「若者の食に対する意識を高める」ということを目的とし活動を行っています。実際に活動を通して、大学生自らも健康的な食生活を送るためのスキルや知識の獲得をしていきます。今年度は子ども食堂で調理を担当し、地域の小学校へ赴き小学生に食育活動をしたりしました。また学生自身の食生活改善のため調理実習を行い、「マイ弁当デー」と題し、学生手作りのお弁当を持ち寄りSNSに投稿し活動を発信しています。

今年度の活動の内容と成果

今年度は、「TFTの知名度の向上」「多くの寄付金を募る」という目標を持って、毎月1週間程度食堂で開催しているTFTフェアを中心として、メンバー内での勉強会や学園祭などのイベントにも出店しました。

新しい試みとしては、調理実習を取り入れました。調理実習では、季節感・カロリー・栄養バランスを重点的に考えながらメンバーと話し合い、アフリカのウガンダで提供されている給食の「ボショ」や「豆腐ハンバーグ」などを作りました。また、調理実習の前に、支援先の現状や食に関する勉強会を行ったことで、メンバーの意識を高めた上で調理実習に臨むことが出来ました。この調理実習を行ったことで、メンバー間の交流がより深まり、活動のモチベーションアップにも繋げることができたと思います。

今年度は、昨年度までのおもな活動であったTFTメニューの考案から、メンバーの知識付けやTFTについての広報に力を入れるよう、活動方針を変更しました。今年度も1年間継続してTFTフェアを開催することができ、多くの方にTFTを知ってもらうきっかけ作りができました。

活動を振り返って、今後の展望

私たちは一年間の活動を通して、方向性を定めて活動を行うことの重要性を改めて感じました。目先のことばかりに集中し、先の展望を想像する力が欠けていました。

今後は「報告・連絡・相談の徹底」とTFTの取り組みや仕組みを知ってもらうための「広報活動の強化」に重点をおいて活動していきたいです。また、SNS等を有効に活用して、手軽にできる国際貢献を発信していきたいと考えています。



今年度の活動の内容と成果

昨年度までは自身のスキル・知識の習得に集中していたため、今年度は若者に食に対してのアプローチをかけ、低下している意識を改善させることを目標に活動してきました。その中で今年度は新しくチャレンジすることが多かった一年でした。プロジェクトの強みである『調理』を外部に発信できた「あしはら子ども食堂」では、2回の活動で合計100食の食事を提供しました。私たちが考えた献立は三食丼でした。栄養バランスを考えサラダを作ったり、子供達が食べやすいように細く切ったりと工夫を凝らしました。当日はスムーズに活動を行うことができ、子ども達のおいしく食べている姿を見ることが出来ました。この経験は、子どもの孤食を考えるきっかけになったと共に「居場所づくり」に貢献できたと感じています。相手先の担当者の方も「ぜひまた一緒に活動を」と言ってくださり、来年度も引き続き活動をしていきたいとメンバー一同感じています。

他にも昨年度から行っている広徳小学校との企画や他プロジェクトとのコラボも、私たちが目標としている食の大切さを発信でき、とても充実した一年間となりました。

活動を振り返って、今後の展望

今後は、プロジェクトの活動目的である「若者の食に対する関心を高める」というのをさらに意識した活動にしていきたいです。学生に向けて食の大切さを発信するため、今年度は実施できなかった大学生向け調理実習の開催をしたいです。また今年度以上に新しいことにチャレンジできたらと思っています。他にも、メンバーの満足度の向上や多くのプロジェクトと交流し活動していき、私たち・プロジェクトの成長につながる活動をしていきます。



地域クリーンアッププロジェクト

共に拾おう、共につくろう

リーダー

地域創生学群 地域創生学類
2年 梶原 大史

参加学生数

39名

活動開始時期

2015年4月～

活動頻度

毎週金曜日、第三土曜日に
定例活動
月に数回土、日に活動

受入・連携団体

北方市民センター

主な活動場所

北方校区
北九州市小倉北区馬島



清掃活動を通じて地域を変えるきっかけ作りを目的に活動をしています。主に大学周辺の北方校区で地域の方と一緒に定期的な清掃活動 (green bird) を実施しており、清掃活動の運営やイベントの企画などを行っています。また、小倉北区馬島の漂着ゴミの清掃活動や島の魅力発信など、様々なフィールドで活動に取り組んでいます。

“ 今年度の活動の内容と成果 ”

今年度の活動は年間を通して昨年度の活動を継続しつつ、新しいことにも挑戦した1年でした。定例の清掃活動を毎週金曜日と第三土曜日で行い、学生や地域の方など800人以上の方に参加をしてもらい、大変充実した活動でした。

新たな取組として、今年度は徳力小学校で行われた「徳力クリーンアップ大作戦」に講師として呼んでいただき、地域の小学生や大人の方と一緒に清掃活動を行いました。ただごみ拾いを行うのではなく、地域の方とコミュニケーションを取りながら一緒にごみを拾い、活動の最後には私たちの活動紹介をするなど、多くの方に知ってもらうことができました。

さらに、他プロジェクトとのコラボレーションも特徴的です。「学生・いぬねこを守る会」と共同で行った「馬島清掃」やその他にも、同じ清掃活動を行っている「三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト」とコラボ清掃も行いました。特に後者は同じ清掃活動をしているプロジェクト同士だからこそ、交流や意見交換をすることで、自分たちには無かった視点を知り、次年度以降に新たにチャレンジしてみたい内容も浮かびました。

“ 活動を振り返って、今後の展望 ”

今年度は多くの場面で地域の方と一緒に活動してきましたが、次年度は地域の方を巻き込んだ企画や活動を行っていきたくと考えています。例えば、定例の活動以外にも地域の方と一緒に一斉清掃を企画したり、市民センターが実施している「いきいき子ども講座」にて、環境やゴミの分別について学ぶ機会を設けたりといった、これまで以上に地域に根付いた活動を行っていきたくと思います。



青空学プロジェクト

私たちができることを 学生目線で考える

リーダー

法学部 法律学科
2年 森 美咲

参加学生数

7名

活動開始時期

2017年3月～

活動頻度

定例ミーティング毎週水曜
(イベントやMTGによって
変更があります)

受入・連携団体

NPO法人 里山を考える会

主な活動場所

北九州市立大学
東田環境ミュージアム



青空学プロジェクトは、環境という大きな分野のなかで私たちができることを考え、企画し、実行します。主な活動としては、地域の方々に対する北九州市の公害に関するインタビュー活動、環境学習研修への参加、環境シンポジウムの企画・運営に学生スタッフとして参加、などです。プロジェクト活動を通じては、環境分野への関心や知識が深くなるだけではなく、北九州市の多岐にわたる魅力を発見することができます。

“ 今年度の活動の内容と成果 ”

今年から私たちは、公害克服という過去の歴史だけではなく、北九州市の現在、そして未来にも目を向けました。その新たな取り組みとしてSDGsに着目した活動を行い、中学生・高校生・大学生といった若い世代が積極的にSDGsについて学び、考えを深める機会をつくりたいと考えました。そうしたなか、「第6回東田サステナブル国際会議×HESD フォーラム2018」の企画運営に参加させていただく機会を得ました。東田サステナブル国際会議の企画運営に参加させていただくにあたって、私たちは北九州市で環境保全の活動をしている中学生・高校生を紹介することをコンセプトにしました。理由は、この環境保全というのはSDGsに掲げられた17のグローバル目標の14に関連しており、この環境保全の活動に積極的に取り組んでいる中学生や高校生に、自分たちの活動を紹介してもらい、自分たちの活動とSDGsのつながりを考える機会にしたいと考えたからです。このような機会を設けたことで、これからの北九州市を背負う若い世代の中でもSDGsの理解の輪を広げるきっかけをつくることができたと感じています。

“ 活動を振り返って、今後の展望 ”

今年度は、若者×SDGsというテーマのもと活動を行いました。次年度の活動についても、今年度の活動を踏まえ、SDGsに関する活動を継続したいと考えています。また、メンバーのSDGsに関する理解や知識を深いものにし、次年度の活動がより良いものになりたいと考えています。



「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト

日常に文学を



リーダー
地域創生学群 地域創生学類
2年 津野 詩音

参加学生数
14名

活動開始時期
2015年11月～

活動頻度
月に7時間程度、
・毎週木曜日など毎週1コマのミーティング
・2か月に1回程度でイベント
・月2回程度の受け入れ先でのミーティング
(担当者のみ)
が主な活動内容です。
※定例ミーティングはメンバーの
講義時間を踏まえ日程調整を行います。

受入・連携団体
北九州市役所
京町銀天街
子ども図書館

主な活動場所
ミーティングは学内
イベントは京町を中心とした地域

森鷗外や松本清張など、北九州市にゆかりのある作家は多くいます。しかし、そうしたことを知らない若者の多くは、北九州市の文学的側面に注目されることも多くありません。私たちブンガクPJは、若者の「文学って古い、固い、難しい」といったイメージを変え、「文学」を新たな北九州市のブランドとしていくために活動をしています。

“ 今年度の活動の内容と成果 ”

今年度も昨年度に引き続き、文学に親しみのない層や若者に文学を楽しんでもらうためのイベントを多く実施しました。紙芝居を作成し、子どもたちに物語に親しんでもらうイベント、様々な視点から物語を見ていく語り場、また朗読会や古本市の出店などです。あるイベントでミッションゲームを行った際には、文学石碑や文化施設に多くの若者や家族連れなどの方々を足を運んでいただき、SNSなども活用しながら多くの人に活動と文学のすばらしさを伝えることが出来ました。ブンガクPJの活動内容は幅広く、自分に興味のある分野を取り入れながら活動することが可能です。小倉の京町商店街の方々と一緒にコラボしてお祭りに出店することや子ども図書館とのイベントに携わることで、活動の場を広げながら私たち学生にできることは何か考え、成長につなげることができました。

“ 活動を振り返って、今後の展望 ”

イベントの集客に課題が残るため、効果的な宣伝方法と広報の仕方を学びながら、より多くの人に私たちの活動を知ってもらいたいと考えています。文学への興味が深い方、文学のイメージを向上させたい世代の方など、様々な世代・立場の人にアプローチする方法を考え、より多くの方に文学への関心を持っていただきたいと思っています。



学生・いぬねこを守る会

知ってください。彼らのいのち。



リーダー
文学部 人間関係学科
2年 迫本 くるみ

参加学生数
15名

活動開始時期
2016年4月～

活動頻度
毎週火曜日ミーティング、
月一シフト制で実地活動

受入・連携団体
NPO法人 門司港レトロ犬猫を守る会

主な活動場所
門司港
カフェ併設型猫シェルター-PUSA (須賀町)

私たちはNPO法人・門司港レトロ犬猫を守る会の方々へ協力するという形で、捨てられた犬たち・野良として生まれた猫たちを新しい飼い主さんと結びつける活動を行っています。

譲渡会や保護猫シェルターの運営に参加したり、紙芝居などで子供たちへの啓発活動などを主な活動としています。

“ 今年度の活動の内容と成果 ”

今年度大きく変わった点としては、保護猫シェルター「PUSA」の開設です！受入先の方が須賀町に新しく開設したPUSAには、毎日2～5匹の迷い犬、猫たちが居て、シェルターに来てくれた方と対面してもらっています。私たちは、月1回程度のシフトで、シェルターの犬猫たちのお世話をしながら、受入先の方々と「どうすればこの猫ちゃん達ももっと容易に家庭を見つけれられるようになるか」について考えています。また、こうした活動へ繋げるための啓発の一環として、「保健所」をモチーフにした子供たち向けの紙芝居を作成したり、ポスターを作ってPUSAの知名度アップを図ったりしています。PUSAでの活動以外では、今年はクリーンアッププロジェクトさんと連携したコラボ企画も行いました！クリーンアッププロジェクトの皆さんが清掃のために訪れる馬島には沢山の懐かしい野良猫たちが住んでいて、島の人と猫が上手く共存できるスタイルを学ぶことができました。今年度の主な活動成果はPUSAの基本の活動スタイルを作れたこと、まだ発足3年目の犬猫の常設活動について考え直せたことです。

“ 活動を振り返って、今後の展望 ”

来年度の目標としては、まずPUSA以外の常設活動をもうひとつ増やしたいと考えています。現段階では、北九州市の動物愛護センターにおいて、センターの犬達の散歩やお風呂のお手伝いを行おうと考えています。また、犬猫たちの殺処分の問題や地域猫制度のことなどをより多くの方々に知ってもらうために、大学でのシンポジウムの開催も予定しています。PJ掛け持ちなどで忙しいメンバーも多いので大変なと思いますが、頑張っていきたいと思っています。



平和の駅運動プロジェクト

楽しく平活 ing

リーダー
地域創生学群 地域創生学類
3年 吉村 友里

参加学生数
7名

活動開始時期
2019年4月～

活動頻度
月に16時間程度
毎週2日

受入・連携団体
平野市民センター
北九州市立西小倉小学校
西日本工業大学
九州共立大学
九州女子大学

主な活動場所
北九州市
長崎市
鳥栖市



私たちは、小倉祇園太鼓を用いて音楽で平和活動を行っている団体です。一年間を通じて活動を行っており、夏は8月6日～8月15日にかけて北九州市や長崎市でイベントを開催し、小倉から長崎までの230kmを自転車でリレーをするという活動をしています。冬には、北九州市内の小中学校に行き、コミュニケーションを用いた平和学習を行っています。

今年度の活動の内容と成果

夏の活動では、北九州市八幡東区の平野市民センターで「第3回 北九州平和音楽祭」を行い、小倉の紫江's前水上ステージにて「第9回 学生平和太鼓フェスティバル」を行いました。自転車リレーでは事故もなく、全ての日程を無事に終えることができました。最終日の8月15日には、長崎原子爆弾無縁死没者追悼祈念堂にて太鼓の演奏をさせていただきました。また、冬の活動は、徳力小学校から依頼をいただき平和学習を行わせていただき、小倉の歴史や戦争についてや小倉祇園太鼓の歴史と一緒に学び、最後には小倉祇園太鼓を実際にふれるという内容で行いました。

今年度は団体設立から9年目の活動でした。少しずつ、団体の名前も知っていただくことが増え、平和学習の依頼や市民センターでの季節行事、語り部同窓会などにも呼んでいただけるようになりました。

活動を振り返って、今後の展望

先代の方々の実績もあり、活動の幅が広がってきていることは間違いなく、これからも活動をより広く濃くしていくことは欠かせません。ですが、その分各々にかかる責任と重圧は大きくなります。この2つの問題を、メンバー間だけではなく社会人サポーターの方々をはじめとする社会人の方との協力でどれだけ払拭できるかが重要になります。平和を願い、伝えるというこの活動を、私たちが率先して行い、平和を作っていくきっかけ作りをしていきたいと思っています。



三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト Clear

課題解決で価値向上 ～ Clear をめざして～

リーダー
地域創生学群 地域創生学類
2年 梶原 大史

参加学生数
10名

活動開始時期
2017年6月～

活動頻度
週に1回の定例清掃活動
毎週一コマの学内ミーティング

受入・連携団体
有限会社ケイネットプラン・カワカミ

主な活動場所
三萩野バス停(2番乗り場)周辺



高速バスの昇降口でもあり北九州の玄関口とも呼ばれている三萩野バス停ですが、ごみが散乱して薄暗く、利用者が気持ちよく使える場所ではありませんでした。これらの問題を解決し、三萩野バス停の価値を向上させるために、有限会社ケイネットプラン・カワカミ様のご協力のもと、毎週のごみ拾い活動や啓発活動・広報活動を行っています。

今年度の活動の内容と成果

私たちのプロジェクトでは、前年度からの活動を継続しつつ、さらにより良いものにしようと頑張っています。その取り組みの一つとして挙げられるのが定例清掃の充実化です。私たちはバス停での清掃活動を継続して行っていますが、今年度はマナーアップの啓発活動を兼ねて、清掃で使用するオリジナルのピブスを作成したり、バス停周辺の清掃活動も始めました。またメンバーだけではなく、様々な人と一緒に活動することにも力を入れました。さらに、年に2、3回ほど行っている大規模清掃では、今年度は市議会議員の方と高校生をお呼びして一緒に活動することができました。様々な外部の方と一緒に活動することでバス停の現状を知ってもらい、私たちの活動を理解してもらうことができました。また、回を重ねるごとに協力して下さる地域の人も増えています。現在ではバス停のごみも少なくなり、地域住民の方も率先してごみ拾いをしてくれるようになりました。

活動を振り返って、今後の展望

今年度の活動を通じて、バス停のごみを大幅に減らすことができたと思います。また地域住民がごみ拾いを始めたということも大きな成果です。それでも、まだまだ改善点があります。今後は啓発活動をより積極的に行いたいと思います。また地域住民を巻き込んだ企画も行っていきたいと考えています。



オープンキャンパスプロジェクト

北九大生が 北九大の魅力を全力でPR!



オープンキャンパスの企画・運営を行うプロジェクトです。学生の視点から、高校生とその保護者の方に北九州市立大学の魅力を伝えます。プロモーション活動から当日のイベントの企画運営、配布物の作成まで、活動内容は多岐にわたります。活気あふれる北九州市立大学の姿を学生自らがアピールすることで、「この大学に通いたい」と思ってもらうことを目的に活動を行っています。

JOB×Project

企業選定から企画・当日運営まで 全てを北九大生で行う合説!!



JOB×Projectでは、業界研究を行う学内合同業界セミナー「JOB×Lab.2020」(11月～12月水曜日、全4回)、及び就活広報解禁後に行う学内合同企業説明会「JOB×HUNTER2020」(3月3日・4日)の企画・運営を行います。企業・団体の誘致を行う「営業」の仕事全員で行い、その後3班に分かれ、各種イベントの企画を行う「イベント班」、学生への広報活動と冊子作成を行う「プロモーション班」、会場設営や当日の運営を行う「オペレーション班」として活動しています。企業・団体様と接することで自らの将来を描き成長できるプロジェクトです。

「キャリアーナ」プロジェクト

北九大生による、 北九大生のための就活情報誌



私たちのプロジェクトは、北九大生へ就職活動に関する情報を提供するフリーペーパー「キャリアーナ」を年2回発行するというものです。当プロジェクトでは、企画から企業への取材交渉、印刷業者との発行のやり取りまでをメンバーが自主的に行っています。学生の目線で就職活動について情報を提供できる強みがあると考えています。2018年度は夏号12名、冬号7名、業界マップ号6名で活動し、学内の学生や社会人の方々に取材を行いました。

施設での学習支援

様々な事情を抱えている 子ども達の学習支援



家庭や社会において様々な事情を抱えている子ども達。そんな小中学生の子ども達に対して学習支援を行っています。活動内容としては、宿題の予習・復習。さらには学校の授業で分からない所の指導をしています。単に勉強を教えるだけでなく、何気ない会話を大切に、温かく見守ってくれる大人でもない友達でもない「大学生」といった関係をつくる、とてもやりがいのある活動です。

STEP3 Check

地域活動発表会

地域活動における発表機会はたくさんあります。広く開かれている発表会から関係者に限られた会議まで、開く側との距離感や関係も様々です。発表者にとってはこれまでの取り組みの成果やアイデアをアウトプットして、他者の視点に触れる機会となります。また、発表することで客観的に活動を振り返ることができます。

開催日時 2019年2月8日(金) 12:30~16:30
開催場所 北九州市立大学本館 A-101

421Lab.にて活動する16のプロジェクトが集まってアワード形式で発表会を開催しました。この発表会には、プロジェクトに参加する大学生以外にも、各プロジェクトの受入先の方や、地域の方、大学関係者など総勢200名近い方々に参加頂きました。

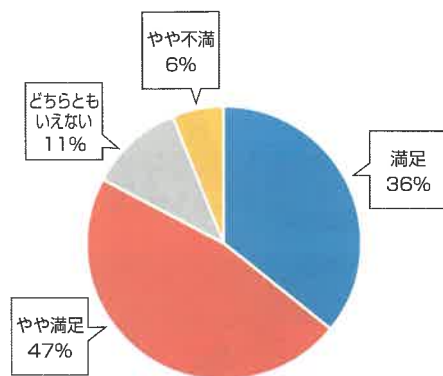
今年度は、各プロジェクトを「Aグループ」「Bグループ」「Cグループ」の3つのグループに分け、参加学生の相互による投票形式でアワードを決定しました。学外の方に学生達の取組を知っていただくことができただけでなく、学生自身も発表を通じて活動を振り返る良い機会となりました。



参加学生からのコメント

- ◆1年間自分たちがやってきた事をみんなで振り返って、発表会に向けて準備して、賞をとることができました。これに満足せず、次年度以降も地域の課題解決に向けて頑張っていこうと思います。
- ◆他のプロジェクトについて、知っているようで意外と知らないことが多く、勉強になりました。他のプロジェクトでは、プロジェクト同士で連携して取組んでいるので、次年度私たちも連携して新たなチャレンジをしたいと思っています。

地域活動発表会参加者の満足度



センター長からのコメント

今回の発表においては、地域活動を行う学生が様々な所で工夫をしながら主体的に活動を行っていることがよく伝わりました。また、プレゼンテーションに関しても丁寧になり込まれており、自分たちの活動を広めたいという意思を強く感じることができたと思います。これからも学生たちには楽しむという気持ちを忘れずに活動し、また地域の方々を何々を求めているのか忘れずに、しっかりと把握して欲しいです。

また、社会や地域の課題について考えることの大切さを忘れないようにしていただきたいです。今後、大きな壁にぶつかることもあるとは思いますが、活動に真摯に取り組み、さらに成長した皆さんに出会えることを楽しみにしています。



地域共生教育センター長 眞鍋 和博

発表会当日の様子



学生手作りのオープニング動画で開幕



総勢200名を超える来場者



学生の工夫を凝らした発表①



学生の工夫を凝らした発表②



受入先からのコメント



授賞式

各グループ 受賞プロジェクト

Aグループ



地域クリーンアッププロジェクト

この1年間、地域や学内に対するプロジェクトの認知度向上に励みました。また、他のプロジェクトと連携して活動を行うなど新しい事にもチャレンジしました。次年度は企業と連携をして活動をしたり、広報に力を入れたりしていきたいです。

Bグループ



三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト

今年度の活動では、受入先とメンバー全員とで実施するディスカッションの場を大切にして活動を実施してきました。そうすることで、その地域の課題が明確になり、結果としてその課題が解決でき、さらにはチームワークも向上しました。来年度は、さらに新しいことにチャレンジしたいと思っています。

Cグループ



防犯・防災プロジェクト

今回の発表では、朝倉での災害支援を通じて学び得たことを、北九州の地域や小学校等の防災活動に活かすことに重点を置きました。これからの目標としては、学生自身の成長と地域への持続的な関わりをより深めていきたいと考えています。

STEP4 Action

振り返り研修・スキルアップ研修

学生個人の成長やプロジェクトの進捗状況を確認するために、定期的に振り返り研修を実施しています。経験したことを単なる出来事や感動だけで終わらせないようにするため、学生運営スタッフが企画から当日の進行まで実施しました。また、今年度は新たな取組として、自分たちの活動を発信するためのツールとして、紙芝居の専門家をお呼びして学ぶスキルアップ研修を実施しました。

前期振り返り研修

【日時】2018年7月21日(土) 10:00~12:00 多目的ホール

上半期の活動が終了して、これまでのプロジェクトの進捗状況を確認するための研修を行いました。前半はプロジェクトごとに上半期を振り返り、個人の課題とプロジェクトの課題を書きだしました。後半は、前半の振り返り内容を踏まえて課題達成に向けてプロジェクトの枠を越えてグループごとに話し合い、最後にプロジェクトごとに集まり下半期に向けてどのように活動を行っていくか話し合いました。

タイムテーブル	
時間	内容
10:00~10:40 (導入)	はじめの挨拶 概要説明 前期振り返り プロジェクト内共有
10:55~11:25 (一部)	プロジェクトシャッフル
11:25~12:00 (二部)	全体振り返り アンケート記入



学生の声 (学生アンケートより)

違うプロジェクトの学生と話すことで、自身のプロジェクトにいないだけでは気がつかない意見を得たり、お互いの意見をぶつけたりととても学びのある研修でした。

1年生の抱えている課題が共通していることが分かった。他のメンバーが前期の活動を通してどのように考えていたのを知ることができた。

後期振り返り研修

【日時】2019年1月18日(金) 10:00~12:00 大学図書館ラーニングコモンズエリア

1年間のプロジェクトの振り返りと来期に向けた目標立てをプロジェクトごとに実施しました。1年間のプロジェクトの活動を振り返り、チャレンジしたことや課題に感じたことを話し合い、次年度にどのように活かしていくのか、その方向性を確認しました。

タイムテーブル	
時間	内容
10:00~10:05 (導入)	はじめの挨拶 概要説明
10:05~11:50 (一部)	ワークシート個人記入 プロジェクト内で共有・振り返り
11:50~12:00 (二部)	アンケート記入 終わりの挨拶



学生の声 (学生アンケートより)

後期に行った活動の成果を共有でき、来年度に向けて具体的な目標を定めることができた。

メンバーがプロジェクトについてどう思っているのかを知ることができてよかった。しっかり振り返りができたので、これからの活動に活かしたい。

スキルアップ研修

【日時】2018年7月14日(土)

各プロジェクトメンバーを対象にスキルアップ研修を企画しました。自分たちの活動を分かりやすく発信するための手段として、紙芝居制作の専門家をお呼びして、プロジェクトごとに紙芝居を作成しました。また、プロジェクトによっては、後日その紙芝居を用いて子ども達の前で発表も行いました。





平成30年7月豪雨に伴う被災地支援活動

本学は平成27年3月に北九州市と「防災協定」を締結し、日頃から防災や減災に特化し活躍できる学生人材を育成しています。一昨年の熊本地震、昨年の九州北部豪雨と多くの学生を派遣してきました。今夏に発生した平成30年7月豪雨では北九州市でも

甚大な被害が発生しました。その際、北九州市社会福祉協議会から災害ボランティアセンター（以下、災害VC）の立上げならびに運営依頼を受け、学生及び教員を現地へと派遣しました。

活動内容

- 災害VCの運営
(資機材の準備・ボランティア保険加入手続き)
- 被災者宅を回りニーズ調査（社協職員に同行）

2018年7月

6日(金)	■平成30年7月豪雨発生
10日(火)	■北九州市社会福祉協議会から学長宛に学生派遣依頼
11日(水)	■災害時緊急支援チームの派遣決定
12日(木)	■参加学生事前研修①
13日(金)	■参加学生事前研修②
14日(土)	■災害VC運営1日目
15日(日)	■災害VC運営2日目
16日(月)	■災害VC運営3日目



参加学生のコメント

地域創生学群 2年 梶原 大史

ボランティア希望者の災害ボランティア保険の手続き業務は学生が担当することで、社協スタッフの方は専門の業務に特化できるため、そうした棲み分けができて良かったと思う。

法学部 1年 栗原 春香

災害ボランティアセンターでは、臨機応変な対応が求められます。そうした中で3日間連続して関わること、途中から参加されたスタッフの方にこれまでの経緯や運営の仕方をうまく伝えることができスムーズに運営できて良かったです。



地域活動に携わる学生の集い2018

2018年11月24日(土)・25日(日)の2日間、421Lab.学生運営スタッフが主催して、西日本地域にある大学を対象に地域活動に携わる大学生のための集い『インターカレッジ』を開催しました。大学の

ボランティアセンターで活動をしていたり、学生ボランティア団体に所属していたりと熱意をもった学生達が2日間かけてグループワーク等を通じて課題の共有や活動の発展に向け話し合いました。

活動内容

参加大学

- 吉備国際大学順正学園ボランティアセンター
- 高知県立大学地域教育研究センター
- 長崎大学やってみゅーデスク
- 熊本県立大学学生ボランティアステーション
- 北九州市立大学地域共生教育センター

1日目

11月24日(土)	
13:00	開会
13:20	各大学紹介
14:00	グループワーク
15:50	発表
16:30	421Lab. 見学
18:00	交流会

2日目

11月25日(土)	
10:00	振り返り
10:20	防犯防災PJの発表
10:30	高知県立大学の発表
10:50	ワークショップ
	休憩
13:30	振り返り
14:00	閉会



参加学生のコメント

熊本県立大学 2年 岩奥 礼奈

他大学の学生団体も、私たちと同じような課題や悩みを抱えていることが分かりました。また、反対に、自分たちと違う課題や悩みを聞いた時、「私たちにもそういった課題があるのではないか？」と自分たちのユニットを見つめ直すことができたので、とてもいい機会となりました。

北九州市立大学 3年 河野 裕平

以前大阪で開催された学生ボランティアセミナーに参加をした際に、自分たちの団体にはまだまだ足りない部分があることに気付かされ、こういった企画を立ち上げて実施したいと思い開催しました。手探りの状況で十分な人数を集めることができませんでしたが、参加した学生達が楽しんでいる様子を見て、企画して良かったと感じました。

私が活躍できる場所、を見つけました

421Lab.では、1日から参加できる短期の地域活動も学生に紹介しています。
 その中のいくつかの活動は、学生が長いスパンで関わり、
 受入先の方との関係を築きながら活動を行っています。
 学生がそれぞれ得意なことを活かしながら地域で活動している様子をご紹介します。

足原のぞみ苑 地域餅つき大会

地域にある介護老人福祉施設からの依頼を受け、入所者さんとそのご家族、更には地域の方々と一緒に行う餅つき大会に参加しました。最初は不安でしたが、「餅をついてごらん」と杵を渡され、地域の方とタイミングを合わせながら餅をつきました。途中、腕が上がらなくなってくると、周りの方から「そーれ」と声をかけて頂き、つきあがる頃にはすっかり打ち解けることができました。



地域創生学群1年 尾澤 あかり

関門海峡花火大会

今年で31回目を迎える関門海峡花火大会。私はボランティアと書かれたゼッケンを身につけ本部テントの片付けや有料席の案内を行いました。その他にもゼッケンを着ていたため、外国人の方に道を尋ねられたり、一般の方に会場説明をしたりと、自分はこのイベントを支える1人であることと実感することができ、とても充実した1日でした。



文学部1年 城戸 麗羅

小倉南区災害ボランティア支援

今夏に発生した西日本豪雨の被害が小倉南区でも発生したため、社協からの依頼を受け一般家庭の家財の片付けや泥出し作業を行いました。猛暑の中での活動だったので、15分ごとに休憩を入れながらの活動でしたが、それでも過酷な作業でした。社協の方や依頼者の方から飲み物の差し入れを頂き嬉しかったです。



法学部4年 小嶺 遼平

生き生き子ども講座

大学の最寄りである北方市民センターで定期的に行われている子ども対象のイベントにボランティアとして参加をしました。今回は子ども達と「スライムづくり」を行いました。進行等もスムーズにでき、子ども達が一生懸命に作っている姿が印象的でした。毎月の活動を楽しみにしている子どももいるみたいで、また参加したいと思います。



経済学部2年 岩井 遥

卒業生・在校生インタビュー

先輩インタビュー
第3弾

421Lab.での地域活動を通して、どんな成長や学びがあったのか活動をやってきた先輩方に取材をしました。



経済学部 3年生
421Lab.学生運営スタッフ
とう くら あや か
東倉 綾花さん

大学生になったら今までと違う事をしようと思っていました。新しく住む土地について知りたいと思い、清掃活動を通して地域の方や学生と話す機会がある地域クリーンアッププロジェクトに入りました。活動を行う中で学生運営スタッフを掛け持ちする先輩に触発されて、2年生からは学生運営スタッフにも入りました。

学生運営スタッフで特に印象に残った活動は、421Lab.1年間の活動の総決算である地域活動発表会の運営です。初めてで慣れないことも多く、準備はとても大変でした。しかし、表彰式で優勝したプロジェクトの人達が喜ぶ顔を見ると、頑張ってたかったと思いました。

421Lab.の活動の中で、様々な人と接してきました。活動を通して、接する相手に合わせた対応の仕方や関わり方を学ぶ事ができました。今後生きていくうえで人と関わらないことはないでしょう。421Lab.で学んだことを生かして、これからも色々な人と関わることを大切にしたいと思います。



法学部 3年生
防犯・防災プロジェクト
きし ちと かつ や
岸本 勝也さん

私は高校まで続けていた剣道を大学でも続けていきたいと思っていましたが、自分の成長を考えると、剣道だけでは変化がみられないと感じました。所属プロジェクトを決めるときに過去の被災経験を思い出し、関係がある防犯・防災プロジェクトに決めました。活動では行政、NPO、地域の方などいろいろな人のかかわりが持てました。防犯・防災プロジェクトは421Lab.のプロジェクトの中でも人数が多いほうで、リーダーとしてみんなをまとめるのはとても大変でした。しかし、ありとあらゆる考え方や価値観を持ったメンバーと接することで、自分とは違った考え方を認める「寛容性」を身につけることができました。また、私たち防犯・防災プロジェクトの目的として「防犯防災意識向上のきっかけづくり」というモットーがあります。それは可視化できないものです。正解のないものに対してどう正解に近づけていくかということを考えていく上で自分の視野を広げることができました。



文学部 3年生
東日本『絆』プロジェクト
こ が わか な
古賀 稚捺さん

福岡県うきは市が地元で、平成29年の北部九州豪雨で被災を経験しました。その時にボランティアを始めとする様々な方に助けをもらい、自分自身にも何かできないかという思いから東日本『絆』プロジェクトに入りました。

一人の力では既存のボランティアへ参加することしかできませんでしたが、プロジェクトに入ったことで自分達で支援の形を考案、そして実行することができるようになりました。

プロジェクト活動の一環として被災した岩手県釜石市に行ったことがあります。そこでは釜石市役所の方と釜石市や被害の大きかった陸前高田市を回ったりしました。実際に現地を見に行っただけで自分達の活動が何に繋がっているかが明確になり、それからは先輩に従属するだけでなく、被災地の為に何かできないかと自発的に考えることができるようになりました。

自発的にプロジェクト活動に取り組むことで、物事の全体を見る力もつきました。自分がやったことが何に繋がるか考えることができ、自覚と責任感を持つ事ができました。



経済学部 3年生
地域クリーンアッププロジェクト
しら とり こう へい
白鳥 公平さん

私は入学式の時に421Lab.の説明を受けました。そこで今まで経験したことがなかったごみ拾いの活動に興味を持ち、地域クリーンアッププロジェクトに入りました。活動では、自分の考えだけではなく他のメンバーの意見を共有し合い、周りを巻き込みながらリーダーを務めることができました。意識の持ち方が違うみんなのことをまとめていかなければならなかったため、周りをよく見るようになることができました。日頃のサークルやアルバイトでも誰がどのように考えて動いているのか見て行動できるようになりました。また以前の自分ではできなかった面倒くさくて周りに任せていたことを自分から積極的にできるようになりました。たとえば道端にごみが落ちていたらそれがどんなに小さなごみでもつい拾ってしまうようになりました。これは私にとっての大きな成長です。

！ 私たちが取材しました！

今回の取材から、先輩方の活動に対する姿勢や思いを垣間見ることができました。先輩方の強い言葉から今日の成長に繋がっているのだと思います。私たちも先輩方の姿を目標に活動を続けていきたいと思っています。

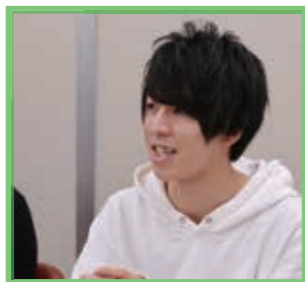
取材者 法学部1年 木倉 泰海
経済学部1年 平良 慎太郎

X STUDENT

REGION

地域と学生を掛け合わせたら何が生まれるか。
その答えを探るために地域で活躍する社会人と
学生に本気で語り合ってもらいます。

今回は、三萩野バス停モラル・マナーアッププロジェクト Clear(以下 Clear)について取り上げました。ご協力いただいたのはケイネット・プラン カワカミの土谷さん(右)、プロジェクトメンバーの津野さん(中)、梶原さん(左)です。プロジェクト設立から2年と立ち上がったばかりのプロジェクトについて熱い思いを語っていただきました。



梶原 大史

- ・地域創生学群地域創生学類2年
- ・北九州市出身・421Lab. 運営スタッフ
- ・Clear、地域クリーンアップPJに所属
- ・朝倉復興支援活動に参加している
- ・趣味：最近映画を見ること

津野 詩音

- ・地域創生学群地域創生学類2年
- ・北九州市出身・421Lab. 運営スタッフ
- ・Clear、ブンガクPJに所属
- ・学外での活動にも参加している
- ・趣味：就寝前に見るYouTube



土谷 一博

- ・有限会社ケイネット・プラン カワカミ(デザイン会社)
- ・プランナー
- ・北九州市出身
- ・趣味はスポーツ(観戦もするもの)



まずは活動内容について教えてください。

津野：発足は2017年6月、私たちが1年生の時です。一番新しいプロジェクトです。目標としては、三萩野バス停の価値向上です。主な活動は週一回の定例清掃でゴミ拾いをしながら啓発活動を行ったり、受入先がデザイン会社ということもあり広報活動を行ったりといった特徴あるプロジェクトです。

梶原：その他にもアンケート調査を行い、データを基に定例ミーティングを行っており毎回1時間~1時間半と熱い議論を交わしています。ミーティングで出たものとして大規模清掃という企画が生まれたり、バス停利用者の方からのご意見をもとに早朝清掃も行ったりしました。定例の清掃活動でも他に時間や掃除の方法を変えて活動することで新しい情報を得ることができるので問題に対して色々な目線からみることが出来ます。

津野：立ち上がったばかりだからプロジェクトの基礎作りにはすごく力が入っているプロジェクトだと思います。

梶原：活動内容としてはゴミ拾いをやっているけどゴミ拾い(をやるだけ)のプロジェクトじゃないんです。

学生とプロジェクトをしようと思ったきっかけはなんですか？

土谷：三萩野のバス停はタバコのポイ捨てやゴミが散乱していて、イメージが非常に悪いという状態でした。そこで看板を設置するだけではなく原因から解決できないかと考えた中で北九州市立大学の学生と取り組みたいと思ったのがきっかけでした。北九大とは元々ご縁があり、そこで学生さんと関わることも多く、北九大の学生さんは優秀な人や実直、誠実な人が多いというのは知っていました。そこで、プロジェクトとして一緒に取り組むことで清掃だけでなく、広告屋として約20年やってきたノウハウを通じて学生の皆さんの役にたつ知識をお伝えしたいと思ったからです。



1年間活動をやってきて見えてきた課題を教えてください。

梶原：活動を通じてバス停のゴミは劇的に減ってきています。しかし、未だゴミがあるというは課題ですね。自分たちが活動を始めてから周囲のお店がゴミ拾いを始めて着実に地域が動いているという印象は受けますが、拾わないといけないうゴミがあるということは本当にモラルが上がっているのかと疑問に思います。自分たち学生がいなくてもゴミがない状態が保てるというのがプロジェクトの最終目標だと思います。また、活動を始めたばかりなので学ぶことも多いし、後輩に教えたり活動を発信したりしていくことが必要だなと思います。

津野：活動の認知度を上げたいですね。ゴミを拾う人がいなくなってもゴミがない状態を目指すためにどうゆう仕組み作りをしたらいのかというのが課題だと思います。また、後輩が入ってきたことで自分が先輩として案は出すが、後輩が動きやすいようにするにはどうしたらいいのかプロジェクトの環境づくりをリーダーはもちろん自分もできたらいいなと思います。

土谷：私は、このプロジェクトが地域に誇れる存在になって欲しいという思いがあります。北九州市は人口減少という大きな課題がありますよね。その中でClearというプロジェクトが起点となり、北九州に行ってみよう、北九大に入りたいといった人が増えていくようなブランドになってくれればいいなと思っています。地元で生まれ育って地元就職した人間としてはそういう大学になって欲しいし、そういう大学が地元にあるのは嬉しいと思います。だからこそ地域が誇れる存在になって欲しい、これはClearだけじゃなく大学にも言えると思います。



↑オリジナルロゴ↑

地域活動に興味のある読者に一言おねがいします。

梶原：授業・サークル・バイトから学べることもありますが、地域活動で学べるものは他では学べないものが多い気がします。地域活動で学んだ知識は様々なことに対して応用が利きます。やって損はないです。また活動していて自分自身楽しいと感じるので大学生活も充実しているという実感があります。このプロジェクト以外にも色々なプロジェクト活動があります。自分が好きなものに関連したプロジェクトを選べるというのも421Lab.の魅力の一つでもあるので、ぜひ一度は参加してもらいたいです。また、プロジェクト活動以外にも短期ボランティアの活動もあります。

土谷：大規模清掃に娘を参加させたことがあるんですけど、そこで学生さんがすごくよくしてくれて、娘とも北九大いいねとよく話をします。同じように地域活動をしていると色々な地域の方と接触すると思います。そこで北九大のファンを増やしてほしいです。いい観光都市はそこに住んでいる一人ひとりがまちの代表といった覚悟というかそういう気持ちを持っています。だから学生さんが地域活動をするときは北九大の代表になります。そこでしっかりした態度だったり活動をすれば一人を通してファンを増やせます。だからと言って身構えてやれとは言いませんけどね。

津野：これから地域活動をする人には、地域活動をするとう本当に出会いが増えたということを伝えたいです。自分がやりたいと思っていることが漠然としたものでも、外には自分より具体的に考えを持っている人がたくさんいます。出会いが増えることによって自分自身の視点も増えました。一歩外に踏み出して視点を変えてみるというきっかけでも十分地域活動はできるのではないかと思います。成果も大事ですが自分が楽しいと思うからこそその一歩が大事だと思います。

インタビューー
尾澤あかり(地域創生学群1年)
カメラマン
武氣優花(経済学部1年)



「地域につながる自分をひろげる」

421Lab. 概要

2010年4月に北九州市立大学に誕生した『421Lab. (地域共生教育センター)』。

私たちの取組みの中心は「地域や学生が主役となる活動」です。地域の皆さんとの対話を繰り返し、学生の活動の細やかなサポートを通して、地域貢献と人材教育の一翼を担っていきます。こういった活動に取り組むことで、学生が地域につながり、自分をひろげることができます。今までにはなかった地域と大学の新しい関係が、ここからはじまっています。

421Lab.にはセンターの運営を支えている「学生運営スタッフ」がいます。ラボの運営を「学生の目線」からサポートする

ことで、学生が気軽に関わりやすい雰囲気を作っています。また、「地域活動に参加したい」、「何かやってみたい」という学生の相談に応えるため、学生運営スタッフ自身もプロジェクトに関わり、地域の課題や学生の役割等を説明できるように取り組んでいます。

その他にも、プロジェクト参加への第1歩となる「地域活動説明会」の企画・運営、421Lab.広報誌「Lab.Times+」の制作、イベントでの出展PRなどを行い、地域と学生とのつなぎ役として日々活動しています。



「地域活動のタイプ」について

地域の皆さんからお申し込みいただいた地域活動は、社会性や公共性（地域への貢献）、人材育成（学生への教育効果）等の観点から以下の4つのタイプに分けて、学生への周知や活動の広報などを行っています。

プロジェクト型

地域社会への貢献（地域課題の解決など）が果たされ、学生への教育的配慮（学生指導）のある比較的中長期的にわたって取り組む活動。

- 421Lab.学生運営スタッフプロジェクト

学生提案型

学生が主体的に取り組み、地域社会への貢献が目的である活動。

- 国際交流プロジェクト【FIVA】
- 食べる国際貢献プロジェクト
- 学生・いぬねこを守る会

インフォメーション型

利用規約（421Lab.のホームページ参照）の項目を満たす地域活動において、掲示板やメールにて学生へ情報提供を行います。学生と地域団体が直接やり取りを行う活動です。

- インフォメーションの一覧は、P42参照

マッチング型

地域活動での体験やレクチャーを通して、活動の目的・趣旨を深く理解できる教育的配慮ある活動。学生へ募集情報を紹介し、地域団体と学生のマッチングを行います。

- 防犯・防災プロジェクト【MATE's】 ●東日本【絆】プロジェクト
- ハッピーバースデープロジェクト ●YAHATA "HAHAHA!" PROJECT
- 食から学ぼうプロジェクト ●地域クリーンアッププロジェクト
- 青空学プロジェクト ●「ブンガクの街北九州」発信プロジェクト
- オープンキャンバスプロジェクト
- キャリアセンター広報誌「キャリアーナ」プロジェクト
- JOB×Project ●子ども食堂応援プロジェクト
- 桜丘小学校学習支援プロジェクト ●「平和の駅運動」プロジェクト

また、これらの地域と連携したプロジェクトの他、オープンキャンパスなどの学内活動を教育プログラムとして取り組んでいるプロジェクトもあります。

地域共生教育センターの歩み

- 2010.4.1 地域共生教育センター設立
- 2010.4.21 地域共生教育センター開所式
- 2010.9 広報誌「FUTURE」創刊
- 2011.3.11 第二回北九州学生フレスコ大会で「会頭賞（最高賞）を受賞
- 2011.4.21 東日本大震災が発生
- 2012.3 東日本大震災関連プロジェクト立ち上げ
- 2012.10.10 登録学生数が1000名を達成
- 2013.2 ふくおか地域（へり）活動賞を受賞
- 2013.7.11 防犯防災ボランティアプロジェクト
- 2014.3.23 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2014.7.11 防犯防災プロジェクト
- 2014.7.11 福岡県防犯協会連合会と福岡県警より表彰
- 2016.1.23 東日本大震災関連プロジェクト「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
- 2016.2.10 第三回地域活動発表会（大学教育再生加速プログラムフォーラム）
- 2016.4.1 防犯防災プロジェクト
- 2016.4.1 福岡県小倉南警察署長より感謝状受賞
- 2016.4.14 熊本地震が発生
- 2016.5.2~5 熊本地震災害支援第二次派遣
- 2016.5.28~6.26 熊本地震災害支援第一次派遣（計五回実施）
- 2016.7.14 熊本地震派遣学生報告会
- 2016.10.1 防犯防災プロジェクト
- 2016.10.21 福岡県防犯協会連合会会長と福岡県警生活安全部長より表彰
- 2016.10.8~10 平成28年度公立大学全国学生大会（LINK+Roads）運営
- 2016.11.27 ふくおか地域（へり）活動賞を受賞
- 2017.2.14 第四回地域活動発表会（大学教育再生加速プログラムフォーラム）
- 2017.7.5 九州北部豪雨が発生
- 2017.7.15~17 九州北部豪雨支援第二次派遣
- 2017.8.5~8 九州北部豪雨支援第一次派遣
- 2017.11 「平和の駅運動」プロジェクト
- 2018.3 ふくおか地域（へり）活動賞を受賞
- 2018.12.25 緊急時災害支援チーム「福岡県防災賞（知事表彰）」受賞
- 2018.12.25 ふくおか共助社会（へり）表彰（福岡県）
- 2018.12.25 地域貢献活動部門賞を受賞

地域につながる小さな一歩

インフォメーション型の地域活動

イベントの当日スタッフやスポーツ大会ボランティアなど、短期の活動を紹介し、多くの学生が地域につながる第一歩を進めました。
2018年度は46の活動に345名が参加しています。

活動名	連携団体	活動者数
九州北部豪雨 日帰りボランティア	地域共生教育センター	24
平成30年7月豪雨ボランティア	福岡県NPO・ボランティアセンター主催	24
ひまわり学習塾	北九州市教育委員会	4
SIM北九州2040 体験会	(一社)城野ひとまちネット	4
YMCAボランティアリーダー	(公財)北九州YMCA	1
グリーンバードの“まち”そうじ	青少年ボランティアステーション	2
英語で遊ぼう	若園保育所	7
さわらび小倉 学習支援	さわらび小倉	3
卓球ジャパンオープン北九州大会ボランティア	国際卓球連盟 日本卓球協会	14
コラボラ ミニプレーパーク	NPO法人北九州子育て・親育ちエンパワメントセンターBee	3
生き生き子ども講座 (北方)	北方市民センター	58
生き生き子ども講座 (浅生)	浅生市民センター	2
オープンキャンパス当日スタッフ	北九州市立大学 広報入試課	74
子ども食堂ワークショップ	子ども寺子屋カフェ	1
第31回関門海峡花火大会	関門海峡花火大会実行委員会	12
ひまわり絵画展	ひまわりアートプロジェクト	1
水かけまつり	一般社団法人門司港まちの情報センター	3
まつりみなみ2018	まつりみなみ実行委員会	8
フシギ!サイエンスカフェ	コラボラキャンパスネットワーク (廣渡ゼミ)	2
北九州ウォーキング大会・会場ボランティア	第12回北九州無法松ソーデーマーチ実行委員会	3
子ども食堂ハッピー	子ども食堂ネットワーク北九州加盟団体	2
わくわくサイエンスキッズ	北九州市立児童文化科学館	10
北九州ワールドバラ・パワーリフティング	市民文化スポーツ局国際スポーツ大会推進室	8
ONOC事前キャンプボランティア (みやこ町)	みやこ町役場 行政経営課	5
ハーバリウム講座	421Lab.運営	8
里親リフレッシュ子どもキャンプボランティア	北九州市里親会 (ひまわり会)	4
ONOC事前キャンプボランティア (築上町)	築上町教育委員会 生涯学習課	2
志徳団地夏祭りボランティア	志徳団地町内会	1
車椅子バスケ 会場運営ボランティア	(公社)北九州市障害福祉ボランティア協会	1
TGC北九州2018	(株)レディスハトヤ	3
留学生文化祭in北九州	北九州市	3
黒崎こども商店街2018	黒崎こども商店街実行委員会	1
アコルデ音楽ボランティア	アコルデ事務局	3
こくらハロウィン2018	こくらハロウィン実行委員会	6
祝町市民センター文化祭	祝町市民センター	1
遊びと清掃	私たちの未来環境プロジェクトの“遊びと清掃”	1
門司港レトロマラソン	門司港レトロマラソン実行委員会	5
子ども食堂ハッピー	子ども食堂ネットワーク北九州加盟団体	7
長行小学校「安全マップづくり」	防犯・防災プロジェクトMATE's	2
第11回北九州市環境首都検定	北九州市	2
チャリティーサンタ	NPO法人チャリティーサンタ北九州支部	5
ハロハロカフェ・ミニプレイパーク説明会	北九州市立大学 コラボラ学生部	3
Keeple&greenbirdコラボ	greenbird小倉チーム&Keeple	3
足原のぞみ苑餅つき大会	足原のぞみ苑	6
大里こだわり食市	門司区総務企画課	2
北九州ラーメン王座選手権2019	一般財団法人門司まちの情報センター	1
合計		345

*活動者数は地域共生教育センターを通して活動に参加した学生数。

2018年地域共生教育センター活動記録

月	会議				研修		広報					
	地域共生教育センター会議	地域共生教育センター運営部会	事務局会議	学生運営スタッフ会議	学生研修	運営スタッフ研修	センターブログ「つれづれ活動日誌」更新回数	facebook更新回数	Lab. Times+	活動メール配信	出前授業	他大学等による視察
4月			第1回4/3 第2回4/10 第3回4/17 第4回4/24	第1回4/11 第2回4/18 第3回4/25	4/7 継続者向け研修		0回	0回		4/12 4/18 4/24 4/25		
5月			第5回5/8 第6回5/15 第7回5/22 第8回5/29	第4回5/9 第5回5/16 第6回5/23 第7回5/30	5/12 スタートアップ研修	5/23、24 新メンバー向け勉強会	0回	0回		5/2 5/18 5/29	5/27 防犯力向上セミナー	5/15 鳥根県立大学
6月			第9回6/5 第10回6/12 第11回6/19 第12回6/26	第8回6/6 第9回6/13 第10回6/20 第11回6/27			2回	0回		6/1 6/7 6/15 6/25 6/27	6/2 横代防災訓練	
7月			第13回7/10 第14回7/17 第15回7/24 第16回7/31	第12回7/4 第13回7/11 第14回7/18 第15回7/25	7/14 紙芝居講座	7/21 前期振り返り研修	1回	1回	7/2 創刊号	7/2 7/12 7/17 7/18 7/26	7/13 日明小地域安全マップ	7/11 弘前大学
8月	第1回 8/14 (メール会議)						0回	6回		8/3 8/16 8/20 8/24 8/31		
9月	第2回 9/26		第17回9/5 第18回9/25	第16回9/25			0回	0回		9/5 9/10 9/14 9/21 9/25	9/21 大里柳小安全マップ 9/29 八幡小防災学習	9/19 高知大学
10月			第19回10/2 第20回10/9 第21回10/16 第22回10/23 第23回10/30	第17回10/3 第18回10/10 第19回10/17 第20回10/31		10/6~8 LINKtopos 10/13 後期仕切り直し研修	4回	2回	10/13 vol.2 発行	10/3 10/9 10/12 10/30	10/20 足原防災イベント	
11月	第3回 11/14		第24回11/6 第25回11/13 第26回11/20	第21回11/14 第22回11/21 第23回11/28			2回	4回		11/9 11/15 11/16 11/20 11/28	11/4 北九州市総合防災訓練(長行小学校) 11/15 長行小学校安全マップ	
12月			第27回12/4 第28回12/11 第29回12/18	第24回12/5 第25回12/19	12/8 OB・OGモチベーションアップ講座			5回	12月 vol.3 発行	12/17 12/21 12/25	12/14 霧丘中学校防災教室 12/14 徳力小学校平和学習	
1月	第4回 1/16		第30回1/8 第31回1/15 第32回1/22 第33回1/29	第26回1/9 第27回1/16		1/18 後期振り返り研修				1/15 1/17 1/23 1/29	1/12 あそぼうさい 1/12 北小倉校区防災訓練	
2月			第34回2/12			2/8 地域活動発表会		1回		2/1 2/4	2/18 筒井市民センターESD推進 いきいきシニア塾(いぬねこPJ) 2/18 西小倉小学校 平和学習	2/15 長野県立大学
3月	第5回 3/20	第1回 3/5							3月 vol.4 発行			3/28 別府大学

パブリシティリスト

平成30年度 地域共生教育センター（421Lab.）に関するパブリシティリスト（主な取材掲載記事・報道情報）

掲載・放送日	媒体・番組名	内 容	プロジェクト名
平成30年 5月28日	読売新聞朝刊	防犯テーマ 大学生議論	防犯・防災プロジェクト MATE's
平成30年 8月10日	毎日新聞朝刊	太鼓の音色に平和への思い	平和の駅プロジェクト
平成30年 8月10日	西日本新聞朝刊	投下目標の地 語り継ぐ	平和の駅プロジェクト
平成30年12月12日	毎日新聞朝刊	グルメや観光地紹介 地域おこし 英語で八幡マップ	YAHATA"HAHAHA!"
平成30年12月15日	毎日新聞朝刊	祇園太鼓 大学生が指導	平和の駅プロジェクト
平成31年 1月 8日	西日本新聞朝刊	外国人サポートの北九大生グループ 八幡の英語版ガイドマップ製作	YAHATA"HAHAHA!"
平成31年 2月15日	毎日新聞朝刊	西工大生と北九大生 地域貢献活動の発表会	421Lab.

新聞記事

▼2018年5月28日（月）読売新聞朝刊 防犯・防災プロジェクト



防犯テーマ 大学生議論

北九州地区 ボランティア 連絡会議

防犯をテーマに議論するボランティアの学生ら

北九州地区の学生ボランティアが集う連絡会議が27日、北九州市小倉南区の市立大北方キャンパスであり、防犯をテーマに意見交換した。

各大学の学生ボランティアが一堂に会し、情報共有や連携、活動の活性化を図ろうと、2015年から始まった連絡会議。今回は市立大、九州国際大、西日本工業大、帝京大の4大学から約60人が参加した。

学生は8班に分かれて議論。「犯罪で狙われやすい『ながらスマホ』をしない」などの防犯活動が定着しない理由について「被害者になっただけでなく、他人事だと考えている」と分析。対策として「仮想現実（VR）で被害体験をしてみる」などとまとめていた。

参加した市立大の「防犯

・防災プロジェクトMATE'sのリーダー、岸本 人にも伝えられるように考
勝也さん(21)は「議論の結 えた」と話した。

2018年8月10日(金)▶
西日本新聞朝刊
平和の駅運動プロジェクト



長崎へ自転車リレー出発 北九大生グループ

長崎原爆の日

長崎原爆の日の9日、北九州市立大の学生グループ「太鼓と平和を考える学生連絡協議会」のメンバーが、小倉北区の勝山公園から自転車で長崎を目指して出発した。当初の投下予定地だった北九州市から約230キロを8人でリレー。各所で「天下泰平」の願いが込められた「小倉祇園太鼓」の音色を届け、15日に長崎市の平和公園に到着する。

投下目標の地語り継ぐ

戦後73年 北九州から

え続ける広島原爆の残り火「平和の火」を事前に採火、バトンのように引き継いで運び、長崎市で原爆犠牲者の慰霊堂にも。炎天下の道のりは楽ではないが、協議会会長の吉村友里さん(21)は3年間は「歩いてる人に声を掛けられて趣旨を説明できるなど、自転車ならではのコミュニケーションがある」と話す。高齢者からは「若い人が平和について考えてくれたらいい」と感謝されることもある。

9日は3年の村岡知保さん(20)と5年の伊藤雄太さん(19)が、小倉祇園太鼓の浴衣姿で「第1走者」として勝山公園を出発。2人は「被爆地になったかもしれぬ北九州から、平和への願いを伝えたい」と意気込み、最初の経田地である飯塚市に向かってペダルを踏み込んだ。(諏訪謙真)

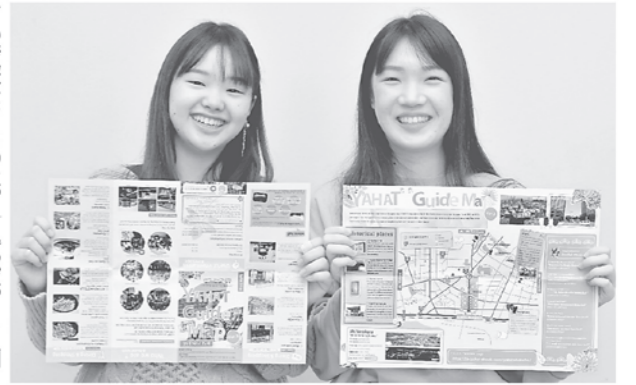
太鼓の音色に平和への思い

吉村友里会長が「戦争の悲惨さを知り今後何ができるのか考えるきっかけになれば」とあいさつ。黙とうの後、天下泰平を願って祇園太鼓や、沖繩のエイサーを披露した。終了後、太平連は市立西小倉小の児童が折った千羽鶴や八女市星野村で採火した広島原爆の残り火を長崎に運ぶ自転車リレーに出発。終戦記念日の15日に長崎市の平和公園で太鼓を披露する。【奥田伸一】

▶2018年8月10日(金) 毎日新聞朝刊
平和の駅運動プロジェクト

▼2018年12月12日(水) 毎日新聞朝刊 YAHATA “HAHAHA!” PROJECT

グルメや観光地紹介 地域おこし 英語で八幡マップ 北九大生が第3版製作



マップを手にするプロジェクトリーダーの細川朋伽さん(左)と松岡伶奈さん

北九州市立大の学生グループ「YAHATA HAHATA! PROJECT」(八幡ハハプロジェクト)が、JR八幡駅(八幡東区)周辺の英語版まち歩きマップを作った。それは屋外店の所在地など、地域や日本文化に親しみやすい情報をまとめた。学生は「外国人に『八幡に来てよかった』と思ってもらえたら」と話す。グループは北九大の地域貢献活動「プロジェクト」の一つで、八幡東区の地域おこしに取り組んでいる。英語版まち歩きマップは2010年に初版、13年に第2版を製作。いずれも残部がなく「第3版がほしい」との要望が寄せられたという。マップには饗ホールや皿倉山など、イベント会場や観光地も盛り込んだ。A3判8つ折りで4000部作り、八幡駅や八幡東区役所などで無料配布する予定。【奥田伸一】

2018年(平成30年)12月15日(土)

毎日新聞

祇園太鼓 大学生が指導

小学生バチさばき教わる

小倉南



学生の指導を受けながら太鼓をたたく子どもたち

小倉南区の市立徳力小学校の3年生が14日、北九州市立大の学生グループ「太鼓と平和を考える学生連絡協議会」(太平連)の指導を受けながら太鼓をたたきながら子どもたち

平連が担当した。子どもたちは体育館で、吉村友里会長(21)ら学生3人から太

平連の活動について説明を受けた後、低音部分の「下ロ」のバチさばきを教わった。男子児童の一人は「腕の使い方が難しかったが、楽しかった」と話した。【奥田伸一】

2018年12月15日(土) 毎日新聞朝刊 平和の駅運動プロジェクト▶

地域の「チカラ」が必要です

地域活動の申込みの流れ

421Lab.を通じて様々な形で地域社会に出た学生が、地域につながり成長しています。また、この良い影響が学内にも広がり、地域活動に参加したいという声も多くなってきております。

この取り組みを広げていくためには、学生を受け入れてご指導くださる地域のフィールドが必要です。地域活動の募集を下記の流れに沿ってお受けしていますので、ご不明な点はお電話またはメールにてお問い合わせください。

1.お申し込みの前に

地域活動の依頼をお受けするに当たり、学生が安全に活動できるように、いくつかの地域団体・活動の選定基準を設けています。新規でお申し込みいただく団体の皆さまは、一度、421Lab.へお越しいただき募集内容などをご相談ください。

2.活動概要の提出

相談後、421Lab.の活動趣旨をご理解いただけましたら、活動報告書やパンフレットなどの団体・活動の実績が分かる書類、地域活動のチラシを合わせてお持ちください。提出いただいた資料を基に、活動のタイプを検討させていただきます。チラシ・HPなどで周知します。

3.学生募集

掲示板、ウェブサイトなどにて周知します。また、相談に来た学生には学生の関心やスケジュールに応じて紹介します。プロジェクト型の活動については説明会にて活動概要のご紹介をお願いすることがありますのでご協力ください。

4.マッチング

【プロジェクト型、マッチング型】
学生からの申し込みがありましたら日程調整等のご連絡をさせていただきます。地域活動の内容確認などを調整させていただきます。
【インフォメーション型】
地域活動を希望する学生が直接ご担当者へご連絡いたします。

5.地域活動

プロジェクト型、マッチング型では活動に取り組む前に事前学習を行います。活動の理解を深めるために取り組み背景や活動趣旨、留意点などのレクチャー、専門的技術や知識に関する講座などをお願いいたします。また、活動の最後には活動を振り返る発表会や反省会などをお願いいたします。

▼2019年1月8日(火) 西日本新聞朝刊 YAHATA “HAHAHA!” PROJECT

外国人サポートの北九大生グループ 八幡の英語版ガイドマップ製作



高松浩文区長とともに英語版ガイドマップの活用を呼び掛ける女子学生たち

北九州市立大の学生グループが、JR八幡駅周辺のグルメや八幡東区の観光名所など、お薦めスポットを紹介した英語版ガイドマップの第3弾を製作した。学生たちは「八幡で学ぶ外国人や観光客に活用してもらいたい。八幡を知って、楽しんでほしい」と活用を呼び掛けている。同区には、海外からの留学生が学ぶ大学や多くの研修生がいる国際協力機構九

州国際センター(JICA九州)があり、景勝地の皿倉山には外国からの観光客も訪れる。外国人をサポートし、地域貢献活動に取り組む北九州市立大の学生グループ「YAHATA HAHATA! PROJECT」(八幡ハハプロジェクト)は2010年に英語版ガイドマップの初版、13年に第2弾を製作。配布先から「なくなったので、新しいマップを作ってほしい」との要望が寄せられたため、グループに所属する学生6人が第3弾を製作した。

マップはA3判、八つ折りで同駅周辺の焼き肉店やすし店、お好み焼き店などを紹介するほか、皿倉山や響ホールなどを載せている。4千部製作し、同駅や区役所などで無料配布。製作に携わった学生3人が昨年12月、同区役所を訪れ高松浩文区長に完成を報告し、1年の堀琴絵さん(19)は「知らない土地で理解できる言語のマップを頼りにしてもらえれば」と話した。(古長寛人)